



# 桐生ロータリークラブ週報

2004年

国際ロータリー第2840地区 2004-2005年度 国際ロータリーのテーマ



## ロータリーを 祝おう

100年の歩み

## CELEBRATE ROTARY

R.I 会長 グレン E. エステス・シニア

善意というものがないなら  
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。  
職業は金儲けのためでしかなく、  
社会奉仕というも施しにすぎず、  
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原 勝樹

会長 前原 正一 幹事 養田 隆

クラブ会報・広報委員会 堀 明・金子篤郎・塚越紀隆・須永博之

1月17日号

### 第2507回例会

(12月27日(月) 第4例会)

- |               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| 1. 点 鐘        | 6. 委員会報告                       |
| 2. ロータリーソング斉唱 | 7. 卓 話 「新会員卓話」 川村 隆君<br>村田 勝俊君 |
| 3. 来訪者紹介      |                                |
| 4. 会長の時間      | 8. 点 鐘                         |
| 5. 幹事報告       |                                |

#### 会長の時間

- 12月20日(月) 家族合同忘年クリスマス会 盛況に感謝。募金箱42,600円
- 2004年を振り返って…炎暑、台風、地震 全国高校駅伝/群馬勢…女子4位、男子3位
- 年末雑感…前原邸 クリスマスツリー ともかくも あなたまかせの 年の暮/小林一栄

#### 幹事報告

- 山崎ガバナー事務所より、地区大会報告書が届いております。
- 全日本RYLA大会実行委員会より「ロータリー100周年・国際大会〈関西〉開催記念“全日本RYLA大会及びRYRAワークショップ”受講生募集のお願い」が届いております。資料をご覧になりたい方は、桐生RC事務局へご連絡下さい。
- 桐生南、桐生西、桐生中央、桐生赤城、前橋、館林の各RCより週報到着。
- 次回の例会は、1月17日(月)です。桐生倶楽部にて、新年初例会を開催いたします。12時30分点鐘です。詳細につきましては、来年になってからFAXいたしますので、よろしくお願い致します。

#### 委員会報告

##### 出席委員会

平成16年12月20日例会の出席(家族合同忘年クリスマス会)  
：総員64名・出席45名  
平成16年12月 6 日例会修正出席率：73.07%  
本日の出席(平成16年12月27日):総員64名・出席43名  
平成16年12月13日例会修正出席率：75.92%

#### ニコニコボックス

佐藤富三君…大分おしつまりました。皆さん、どうぞ良いお年を迎えて下さい。/村田勝俊君…新入会員卓話をさせていただきます/川村 隆君…卓話をさせていただきます。/藤井征夫君…親睦活動委員の皆さん、クリスマス祭本当にご苦勞様でした。/村田勝俊君…クリスマス会の余興で息ぴったりに踊れました/岸 省吾君…クリスマス会が無事終了しました/須永博之君…思いの外楽しい余興をさせて頂きました/小島弘一君…初めてのビンゴ/吉野雅比古君…クリスマス会のビンゴゲームで家族を含め多くの景品をいただきました。/前原正一君…前原医院様のクリスマスツリーを眺めて、今年もニコニコ年が送れます/蓮 直孝君…昨日は関係者に大変ご迷惑をお掛け致しました。お詫び申し上げます。/藤井征夫君…吉野雅比古さん、村田勝俊さんにお世話になります。

#### 卓 話



##### 「新会員卓話」

川村 隆君

皆様こんにちは! 今年の3月に入会して、早10ヶ月が経ちました。その間皆様には大変ご親切にして頂き有難う御座います。お蔭様にて、最近漸く月曜日の昼はロータリーの例会だという事に、体も頭も心も慣れて来た様に思います。しかし、「新会員卓話は恒例なので12月に卓話をして下さい。」とプログラム委員長

例会場 桐生倶楽部 TEL45-1513 例会日 毎月曜日 12:30PM

ホームページ <http://www.Kiryu.co.jp/Kiryurc/> メール [Kiryu-rc@ktv.ne.jp](mailto:Kiryu-rc@ktv.ne.jp)

の松島氏から言われた時は驚きました。卓話をされる方は別世界の方々だと思っていました。皆様にお話し出来るような内容を持ち合せていないので当然の事では有りますが、何を話して良いのか解りませんでした。しかし、何かを話さなければならぬ。それならば、会員の皆様には大変詰まらない話だと思いますが、自分自身が好きで今迄に何回か行った旅の話をさせていただけようと思いました。

1966年3月末、1週間の予定で堺市、京都市、金沢市と弟と二人で親戚巡りをしました。行きは東海道の夜行列車、帰りは北陸線の夜行列車に乗りました。当時中学を卒業したばかりの私と、中学1年を終えたばかりの弟が銀閣寺の前で学生服で写っている白黒写真を見ると、幾つかの出来事が思い出されます。行きの夜行列車は、混んでいて静岡駅を過ぎる位迄立っていた事。金沢でバスに乗り安宅閣に行き、米軍機が飛び立つ小松空港に1時間歩いて行った事。帰りの夜行列車では、金沢駅で大勢の家族に見送られていた東京の大学へ入学する二人連れと同席し、興奮気味に話し掛ける二人に押され、旅疲れていた私と弟は高崎駅に着く迄一睡も出来無かった事。

1970年7月、10日間の予定で東京から北海道へ一人行きました。青森行きの夜行列車は満員で上野駅を発車。中年の小父さん、20代の女性、30代の男性と私の4人で座りました。20代の女性は東京で夢破れ盛岡付近へ帰郷するとの事でした。青函連絡船に乗り、周遊券で一気に稚内まで行き、駅に寝、翌朝寒くて起きた事。台風接近の為、礼文島へ行く最後の超満員のぼんぼん船に載り、横殴りの雨で甲板にも出られず、揺れの激しい鯨詰の船内に人々のもどした籠えた匂いと共に2時間ばかり居た事。礼文島での2日目の良く晴れた朝、海辺で雲丹を選り分けていたお婆さんを見ることも無しに見ている、一つ貰った事。稚内からオホーツク沿いにバスでサロマ湖に行き、船長の家という民宿に泊まり、翌朝3時に起き舟で餌はホタテで入れ食いの鰯を釣った事。層雲峡からの最終バスに乗り遅れ25km先の目的地まで歩き始めた時、断ったにも拘わらず、5人乗りの自動車に6人目として強引に乗せてくれた中年の小父さん達。北海道周遊券を買い、ポケットに18,000円、背中のリュックに寝袋を入れた旅でした。



### 「新会員卓話」

村田 勝俊 君

新会員の村田勝俊です。3月にロータリーに入りましてから、早10ヶ月がたちました。この間多くの例会に出席できましたが、新入りを毎回暖かく受け入れてくださる皆様のお蔭と感謝しています。

今年久しぶりに東京新宿末広亭に落語を聞きに行きました。末広亭の中は昔どおりの狭く古びた感じです。昭和に戻った感覚です。平日の昼は東京とはいえ空いていてまばらに観客が座っていました。二人ずれもいますが、一人で聞きに来ている人が結構いて、みんなまばらに座っています。そんな中で私の左隣のおじさん(わたしもすでにおじさんであります)はずっと寝ていて、ぴくりとも動かない。まさか冷たくなっているのではと心配になるくらい。いびきもかかない。橋屋円蔵が『今日の客は笑うところで笑わないのでやりにくい』などと言っても反応なし。このままで行くのかなと思いきや、お目当ての落語家が高座に上ると、やおら起きだしてにこにこにこにこ一生懸命喜んで聞

いている。その落語が終わるとまた意識不明瞭状態に復帰。一方、右隣のおじさんは一言一句真剣に聞いている。姿勢もよい。ただし、まったく笑わない。みんな笑っているときにひとり笑わないのですからとても気になりますし、不気味です。やはり寄席にいったら笑わないと周囲を不安にさせますね。一緒に笑ってほしい。クラブの例会ではユーモアがうまい方が多くいるせいか結構笑うチャンスが与えられます。笑うと健康にいいそうですから笑う機会を常時持っていたいものですし、心がけて笑う機会を多く作りたくと念ずるものです。

落語といえば、小さいころ、私は噺家の真似をしていたことがあります。芸名も勝手に三遊亭なんとかとつけていたかと思いますが、残念ながら忘れてしまいました。当時テレビで落語放映があったのでしょね。そう言えば『お笑い三人組』が大人気でした。一竜斎貞鳳、三遊亭小金馬、江戸屋猫八など当時の若手芸人が一世を風靡していました。『あはは・いひひ・えへへのおほほではははは・僕らはお笑い三人組』と私も歌っていました。

さて、私の落語といえば、当時住んでいた宮本町の家の和室の襖を開けておいて、畳に座布団を敷きその上にちょこんとお座りする。おとなの扇子を体の前においてお辞儀をする。頃あいを見計らって、たぶん姉か兄と思いますが、襖を両側へ開けて『毎度ばかばかしいお笑いを一席』と始まる次第。観客は母や近所の友達といった小さな高座です。噺家の真似をなぜか子供ながら試みていたわけです。

真似をするというのは言葉を習得する上でとても大切です。いま、ロータリーの企画で中国語を内モンゴル自治区からの留学生、苗(ミオ)先生から教えてもらっています。ミオ先生の発音の真似を一生懸命しています。ミオ先生はなかなか教える上手。ほめるのがうまい。『いいですねえ』と大きな声でほめる。正面きってほめられると、とても照れくさいですが、うれしいですね。私などは仕事ではつい注意が先行してしまい、ほめる回数が少ないように思います。中国語講座に参加してからはなるべくほめることを心がけています。

ところで、ミオ先生は単なるほめ上手だけではなく、締めるところはきちんと締める。その点若くしてすでに優れた教育者の風貌があります。発音で声小さかったりすると、大きな声で自分をごまかさないうで発音しようと言います。しっかり覚えるためには、大きな声で発音することで先生に間違いを指摘してもらい、そうすることで上達するのだということです。クリスマス会の踊りでもその指導振りには感心しました。

なお、クリスマス会といえば自画自賛になりますが、内モンゴルの衣装はわれわれにとっても似合いますね。ミオ先生の特注の衣装も素敵でした。川村さんの企画力と手配の賜物でした。そしてロータリーに米山奨学生制度があったればこそその収穫でもあり、ロータリーに参加させていただいたからこそその喜びであったと感謝しています。

このように何を始めるにしても先生は必要です。重要な存在です。そして、人生を生きていくうえで、模範とする人、師と仰ぐ人、目標とする人がいるとありがたいですね。まず、少しでも真似をすることができますし、例を示してくれます。忠告もしてくれますし、相談に乗ってもらえます。気にかけてくれて様子を見て来てくれることもあります。ロータリーの魅力というのもそういう点にあるのかもしれない。まだ入ったばかりでしかとわかりませんが、直感的にそう思います。

(紙面の都合により続きは次号掲載とさせていただきます)